

キャラクター名 MOL
 プレイヤー名

種族	ティエンス	種族特徴	通じ合う意識		
生まれ	神官	性別	女	年齢	13
冒険者Lv	2	経歴	のめりこむ趣味がある(酒)		
経験点	500		大きな失敗をしたことがある(街中酒飲み敗北リバース) 家族に冒険者がいた		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能		Lv.	技能		Lv.
技	7	器用度	6			13	2	プリースト/キルヒア		2			
		敏捷度	7			14	2	セージ		1			
体	12	筋力	5			17	2						
		生命力	7			19	3						
心	9	知力	10			19	3						
		精神力	14			23	3						

戦闘特技			
魔法拡大/数	1-289p		p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p

言語	会話	読文
交易共通語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
汎用蛮族語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

練技/呪歌/騎芸/賦術	

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

技能	技能	基本	基本	基本追加	必要			
	レベル	命中力	回避力	ダメージ	ランク	筋力	回避力	防護点
ファイター	0					1	0	2
グラブラー	0							
フェンサー	0							
シューター	0							

鎧と盾			
鎧	クロスアーマー		
盾			
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)			
回避技能		合計値	0 2

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
クォータースタッフ	2H	4	1	2d+ 1	12	0	14										
				2d+													
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)		
冒険者セット	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
酒の種x2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
蒸留酒x2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
保存食x2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ティーセット	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
エール	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

調理道具セット	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/>
所持金	75 G
預金・借金	G

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	14 m	42 m	2d+ 0	2	25

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 4	2d+ 0	2d+ 5	2d+ 5	29

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	2	5			

装備品	説明	装備品	説明
頭			
耳			
顔			
首			
背中			
右手			
腰	聖印<瓢箪型>	左手	
足			
その他			

その他メモ	自動失敗
倒したい相手に会いに行く。	チェック
外面だけは淑女、中身はテレパス酔いどれ女。 「この身は道を求める僧侶の身、あなたのカとなりましょう」(ふわーお酒さいつこーふっわふわー☆かんぱーい！！いえー！！)	<input type="checkbox"/>
酒に出会い酒を愛し酒に溺れているごく普通のティエンスの女子。 住んでいた街ではドワーフすら落していた彼女は初めての飲酒バトルにて冒険者に敗北を喫し世界の広さを知る。 かつてお前の父母は冒険者だった、そう今際の際に語ってくれた育ての爺さまの言葉がより強く冒険者という存在へと彼女を惹きつけた。 こうして彼女は高尚な神父よりも、酒気乱れ交す冒険者への憧れを持つようになったのだ。	<input type="checkbox"/>
Marry・Odilia・Loewengardは、この世全ての酒に愛される為に生を受けたのだと本気でそう思ったのだ。	<input type="checkbox"/>